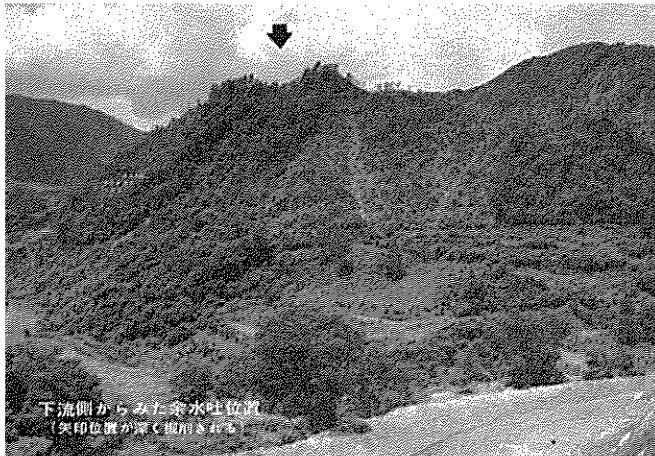
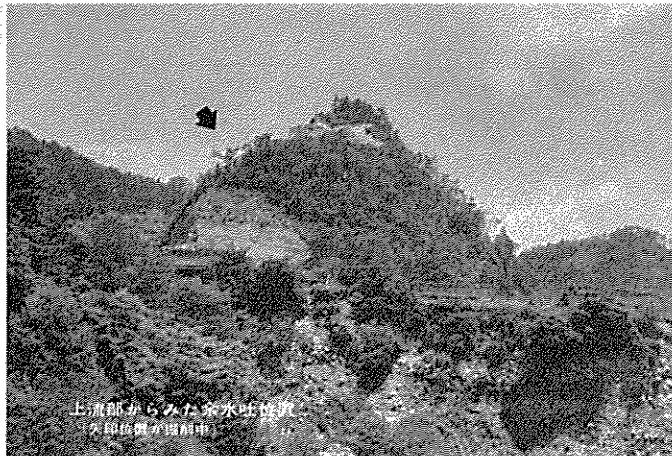




下流側からみた余水吐位置
(矢印位置が深く掘削される)



上流側からみた余水吐位置
(矢印位置が掘削中)

掘削を開始した 余水吐工事

□山形あらたまるぼう大な掘削

牧尾ダムの築堤に要するロック(岩塊)は、111万 m^3 というぼう大な量である。

この大量のロックは、大部分余水吐の掘削岩が利用されるが、この余水吐はラクダの背のコブのような「中山」の中央を、上巾110m、底巾50m、深さ95mという大きな断面で、U字形にザックリとえぐりとして施工される。文字どおり「山形、為にあらたまる」という格好だ。

□活躍する重機械群

すでに、7月18日から爆破を開始して、切り取った岩をコフファ・ダムに使用しているが、ここで活躍している重機械は、容量2.3 m^3 という巨大なパワー・ショベル3台(P&H製)、22トンのこれまた見上げるようなダンプ・ホーラー9台(ル・ターナー製)を主力として、ほかに多数のダンプ・トラックやブルドーザーが動いている。一山を掘り崩してしまうという工事であるが、パワー・ショベルのたくましい動きをみていると、「自然改造の深い爪跡」という形容がいかにも迫真的である。



活躍するP&H製のパワー・ショベル(2.3 m^3)とル・ターナー製のダンプ・ホーラー(22トン)